

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 青少年健全育成の推進
 基本事業 心のケアの充実

事業名 **問題行動対策事業**

[0469]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	対象
課名	学校教育支援室	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) ・児童生徒 ・児童生徒の保護者並びに教育関係者
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 巡回街頭指導等により 児童生徒の非行防止に努め、健全育成を図る。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) 専任指導員、少年育成委員を配置し巡回街頭指導等を行う。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	小中学校児童生徒数	人	11,204	10,941	10,674	10,319
対象指標2						
活動指標1	巡回街頭実施回数	回	499	502	496	500
活動指標2						
成果指標1	補導された児童生徒の数	人	314	282	190	280
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	6,352	6,442	6,469	6,570
正職員人件費 (B)		千円	4,606	4,597	8,298	8,328
総事業費 (A) + (B)		千円	10,958	11,039	14,767	14,898

費用内訳	
21年度	報酬 5,921千円、報償費 230千円、旅費 116千円、需用費 119千円、役務費 37千円、使用料及び賃借料 47千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	児童生徒の非行防止のため	事業を取り巻く環境変化	
--------	--------------	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
根拠は？

指導センターは国の「少年補導センター運営に関する指導要領」に基づいて運営されてきたものである。ほとんどの都市においても類似の機能を持った役割組織があり、青少年の健全育成という命題達成の施策のひとつであると考え。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

児童生徒の心理状態は不安定で常に非行に陥る可能性を多くの青少年が持っているが、指導活動と取り組むことで1人でも多くの青少年を非行化から守ることが健全な青少年育成の上で欠かせないと考え。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
根拠は？

継続的に巡回街頭指導に取り組んできていることから、21年度は補導された児童生徒数が減少した。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

非行化のすべての要因を教育的手法のみから捉えきることはできない。例えば有害図書、興業を根絶することが教育サイトからの働きかけでは不可能であり、薬物を根絶することができなければ現状では青少年がそれに汚染される機会には常にありうる。その意味で限界はあるが努力は重ねられなければならないと考え。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
根拠は？

事業内容は、マンパワーを必要とするものであり、各種のボランティアと協力しながら事業遂行をしているが、当該事業のボランティアによる事業運営は困難である。